

2022年6月期 第3四半期 決算説明資料

株式会社エンビプロ・ホールディングス
2022年5月13日



目次

1. 第3四半期 決算概要
2. 2022年6月期 見通し
3. 参考資料

1. 第3四半期 決算概要

第3四半期（累計） ハイライト



連結業績

売上高	40,615百万円	(前年同期比	51.1%増)
営業利益	2,306百万円	(前年同期比	84.4%増)
経常利益	2,767百万円	(前年同期比	88.5%増)
四半期純利益*	1,973百万円	(前年同期比	187.6%増)

主要TOPICS

- 鉄スクラップ価格（東京製鐵田原海上特級価格）の期中平均価格は53,735円と前年同期の32,231円を上回って推移
- 銅、アルミ、ニッケル、コバルトの期中平均価格も前年同期を上回って推移
- ロシア、ウクライナ情勢の影響による鉄鋼半製品等の供給不安から資源全般の価格が上昇
- 脱炭素社会への動きに関連して、CO₂排出低減効果からリサイクル資源活用の評価が向上
- 世界的な輸送用コンテナ不足等を背景とする配船難により海上運賃が高騰
- リチウムイオン電池リサイクル事業はニッケル、コバルト価格の上昇及び大手電池メーカー等からの仕入量増加に加え、集荷・生産・分析・販売体制の整備が進捗
- 新工場建設計画を公表（2022年12月竣工、総投資額 約18億円）

*四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益
（金額、数量は切り捨て表示：％は四捨五入表示）

連結損益計算書概要



(単位：百万円)

	2021年6月期 第3四半期累計	2022年6月期 第3四半期累計	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	26,874	40,615	13,740	51.1%
売上総利益	5,536	7,539	2,002	36.2%
営業利益	1,250	2,306	1,055	84.4%
経常利益	1,467	2,767	1,299	88.5%
税金等調整前 四半期純利益	1,050	2,781	1,731	164.9%
四半期純利益※	686	1,973	1,287	187.6%
限界利益※	5,503	6,992	1,489	27.1%
EBITDA※	1,814	2,821	1,006	55.5%
純粹固定費※	4,269	4,594	325	7.6%

※四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

※限界利益＝売上高－変動費

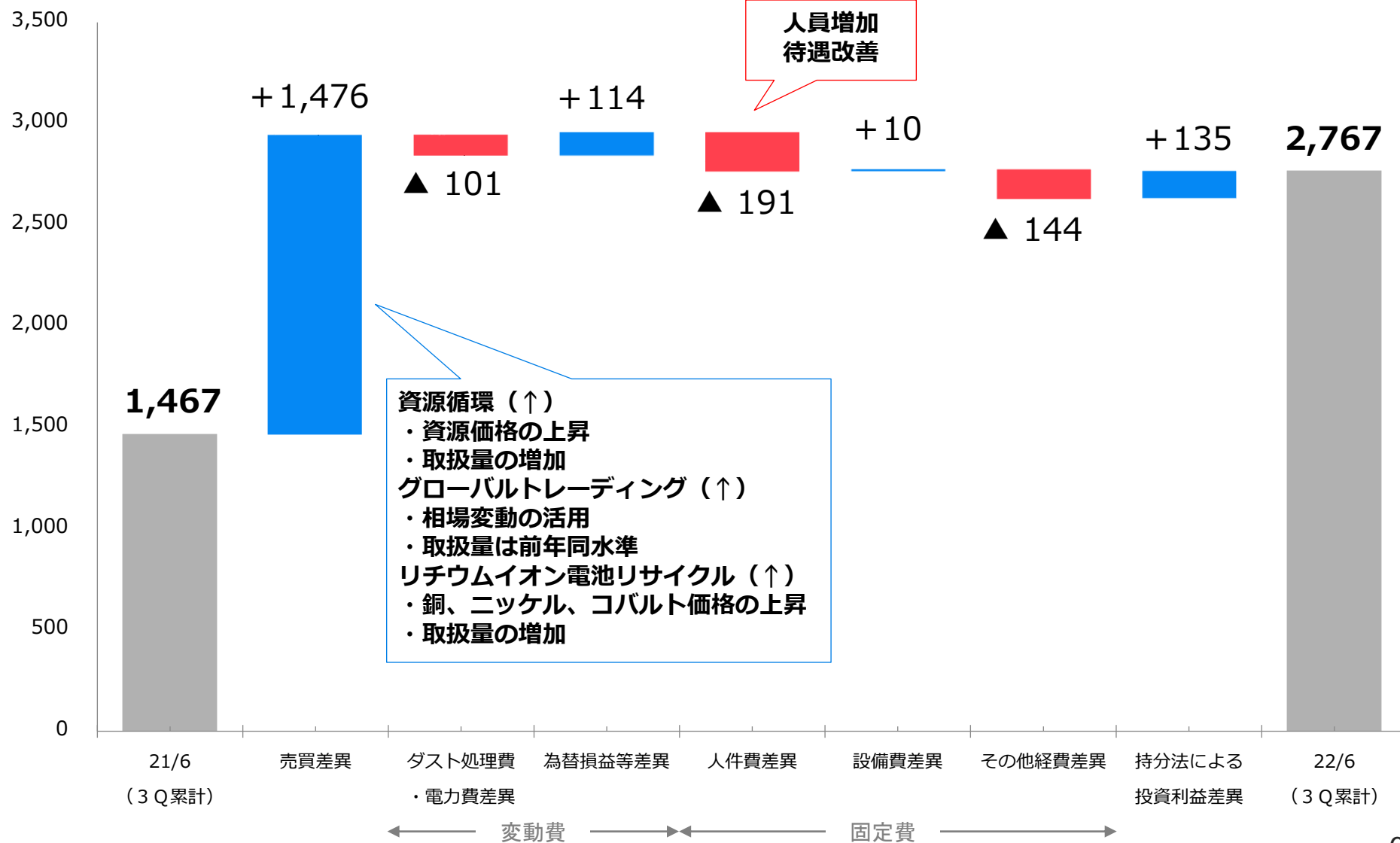
※EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却

※純粹固定費＝【売上原価・販管費・営業外費用の固定費相当分】－【為替差益・持分利益を除いた営業外収益分】

連結経常利益差異分析（前年同期比）



(単位：百万円)



連結業績推移



売上高（取扱量）

前年同期比
51.1%増

(単位：億円)

(単位：千 t)

(単位：億円)

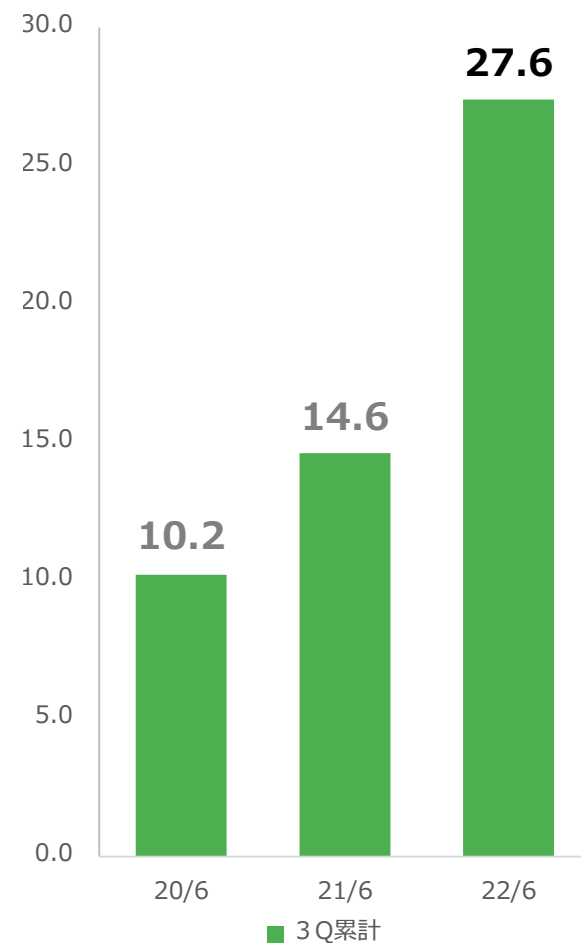
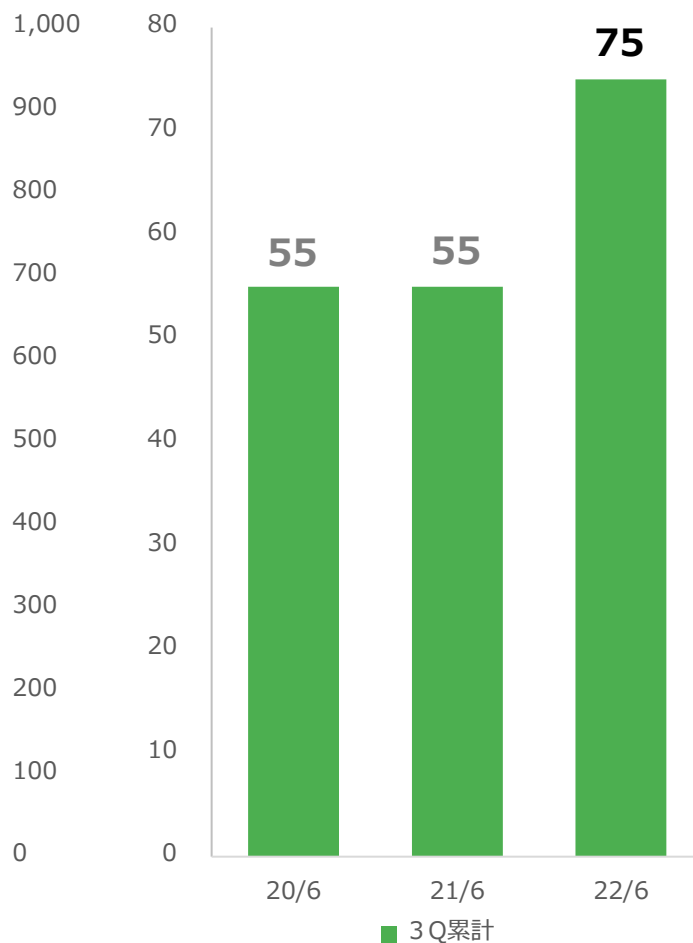
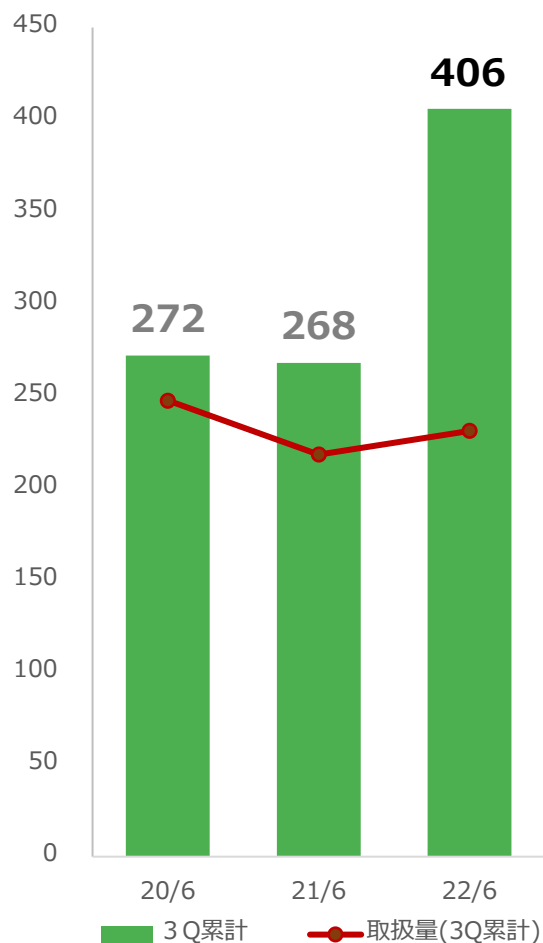
(単位：億円)

売上総利益

前年同期比
36.2%増

経常利益

前年同期比
88.5%増



セグメント別業績概要



(単位：百万円)

売上高	2021年6月期 第3四半期累計	2022年6月期 第3四半期累計			
	実績	実績	前年同期比		構成比
			増減額	増減率	
連結	26,874	40,615	13,740	51.1%	100.0%
資源循環事業	9,720	15,022	5,302	54.6%	32.5%
グローバルトレーディング事業	19,828	29,977	10,148	51.2%	65.0%
リチウムイオン電池リサイクル事業	194	785	591	304.2%	1.7%
その他	267	367	100	37.5%	0.8%
調整額	▲ 3,135	▲ 5,537	▲ 2,401	-	-

セグメント利益	2021年6月期 第3四半期累計	2022年6月期 第3四半期累計			
	実績	実績	前年同期比		構成比
			増減額	増減率	
連結	1,467	2,767	1,299	88.5%	100.0%
資源循環事業	1,356	2,116	759	56.0%	69.0%
グローバルトレーディング事業	428	578	149	35.0%	18.9%
リチウムイオン電池リサイクル事業	▲ 104	249	353	-	8.1%
その他	70	124	54	77.2%	4.0%
調整額	▲ 283	▲ 301	▲ 17	-	-

セグメント別業績概要



(単位：百万円)

		2021年6月期 第3四半期累計	2022年6月期 第3四半期累計			
		実績	実績	前年同期比		構成比
				増減額	増減率	
資源循環事業	売上高	9,720	15,022	5,302	54.6%	32.5%
	セグメント利益	1,356	2,116	759	56.0%	69.0%
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 鉄スクラップ、非鉄金属の平均価格は前年同期を上回って推移 ▶ 物理的選別技術を背景とした資源リサイクルの収益性の向上 ▶ 大型シュレッダーから生産される鉄スクラップの上級品種への需要増加により、下級品種との価格差が一時的に拡大 ▶ 大型解体物件から排出される鉄スクラップ仕入の影響による取扱量の増加 					
グローバル トレーディング事業	売上高	19,828	29,977	10,148	51.2%	65.0%
	セグメント利益	428	578	149	35.0%	18.9%
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 第2四半期会計期間に悪化した金属スクラップの輸出環境は、経済活動の再開や円安進行により第3四半期会計期間に持ち直しの動きが継続 ▶ 輸送用コンテナ不足等を背景とする配船難により海上運賃が高騰 ▶ 国内需要の取り込み及び価格変動を活用した販売により収益を確保 ▶ 物流代行サービスの価格転嫁及びRORO船の活用増加等により収益を確保 					

セグメント別業績概要



(単位：百万円)

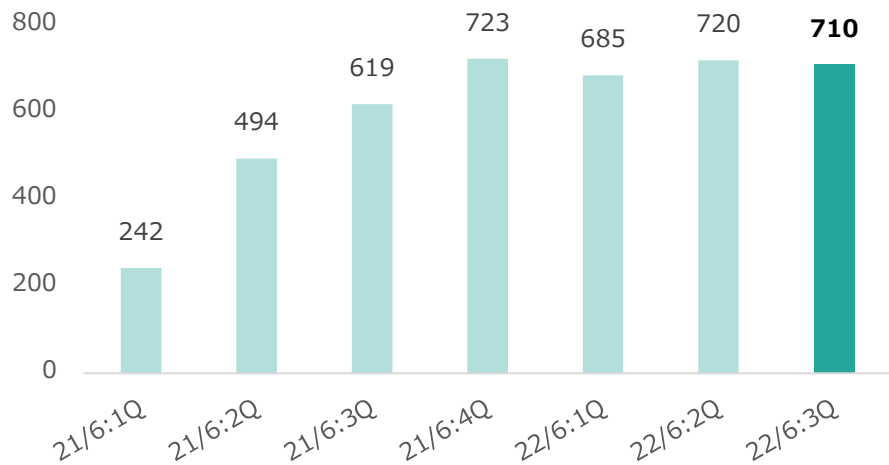
		2021年6月期 第3四半期累計	2022年6月期 第3四半期累計			
		実績	実績	前年同期比		構成比
				増減額	増減率	
リチウムイオン電池 リサイクル事業	売上高	194	785	591	304.2%	1.7%
	セグメント利益	▲ 104	249	353	-	8.1%
				<ul style="list-style-type: none"> ▶ 大手電池メーカーからの仕入や処分業許可を活用した廃電池の処理受託による取扱量の増加 ▶ コバルト、ニッケル、銅価格は前年同期を上回って推移 ▶ ブラックマス*生産量の増加 ▶ 前期に実施した減損損失による減価償却費減少に伴う収益の増加 		
その他	売上高	267	367	100	37.5%	0.8%
	セグメント利益	70	124	54	77.2%	4.0%
				<p>《環境経営コンサルティング事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ CDP評価向上支援、カーボンニュートラル戦略立案及びTCFD対応支援、サーキュラーエコノミー等のコンサルティングの堅調な受注により収益を確保 <p>《障がい福祉サービス事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 報酬改定による収益性の悪化及び待遇改善による人件費の増加 ▶ 就労移行支援事業所ブライトむさし小杉を2022年2月末に閉鎖 		

セグメント利益四半期推移



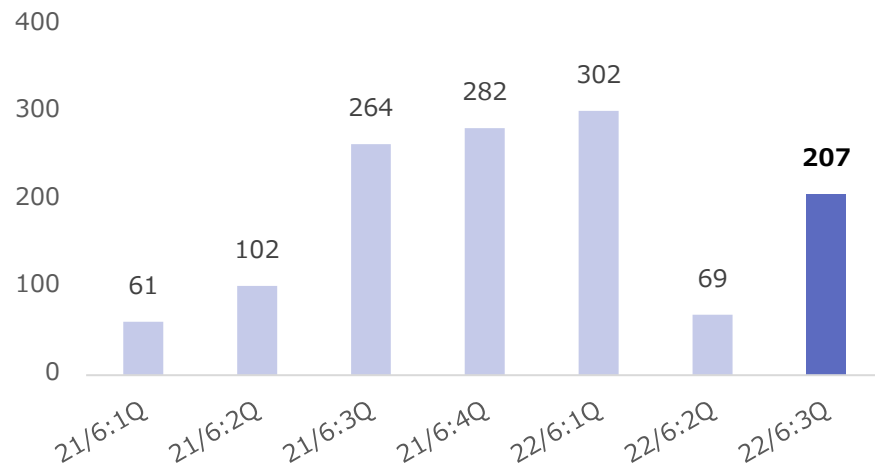
(単位：百万円)

資源循環事業



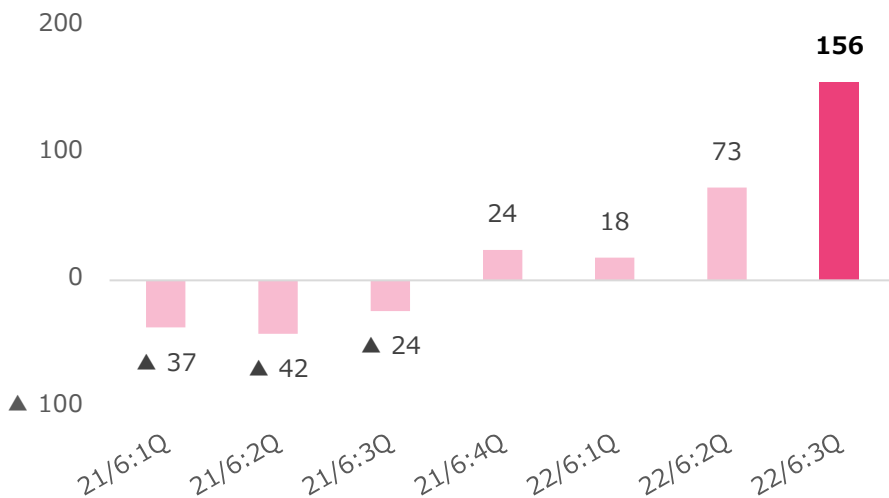
(単位：百万円)

グローバルトレーディング事業



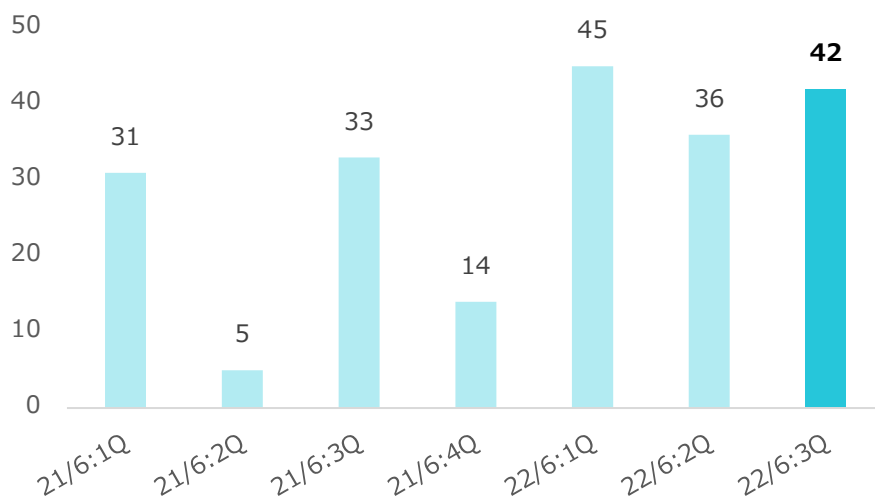
(単位：百万円)

リチウムイオン電池リサイクル事業



(単位：百万円)

その他



連結貸借対照表概要



(単位：百万円)

	2021年 6月末	2022年 3月末	前期末比 増減額		2021年 6月末	2022年 3月末	前期末比 増減額
流動資産	17,500	19,168	1,667	流動負債	9,765	11,032	1,267
固定資産	9,048	9,765	717	固定負債	3,450	2,875	▲575
（有形固定資産）	6,119	6,452	333	負債合計	13,215	13,907	691
（無形固定資産）	66	98	32	純資産	13,333	15,026	1,692
（投資その他の資産）	2,862	3,214	352	（自己資本）	12,959	14,614	1,655
資産合計	26,548	28,933	2,384	負債純資産合計	26,548	28,933	2,384

主要TOPICS（前期末比）

- 流動資産（現金及び預金476百万円、商品及び製品953百万円、受取手形及び売掛金▲185百万円）
- 固定資産（投資有価証券364百万円、建設仮勘定296百万円、土地164百万円）
- 流動負債（短期借入金1,120百万円、支払手形及び買掛金308百万円、その他流動負債▲275百万円）
- 固定負債（長期借入金▲540百万円）
- 自己資本比率 50.5%（2021年6月末 48.8%）

2. 2022年6月期 見通し

2022年6月期連結業績見通し

前回予想時（3/28）から業績予想を再度上方修正

連結業績予想

売上高	57,000百万円	（前期比 39.2%増）
営業利益	3,310百万円	（前期比 55.4%増）
経常利益	4,000百万円	（前期比 59.5%増）
当期純利益*	2,870百万円	（前期比 92.4%増）

主要TOPICS

- コロナ禍、地政学的リスクの高まりにより先行きは不透明ながらも金属スクラップの需給逼迫を予想
- 脱炭素社会への動きに関連して、CO₂排出低減効果からリサイクル資源活用の評価が向上
- 鉄、銅、金、銀、ニッケル、コバルト価格が当初前提条件を上回って推移
- 資源価格上昇により物理選別技術を背景とした資源リサイクルの収益性が向上
- 第2四半期会計期間に悪化した中国、東南アジアへの金属スクラップの輸出環境は、第3四半期会計期間から持ち直しの動きが継続
- リチウムイオン電池リサイクル事業の収益性が取扱量の増加及び資源価格上昇により向上
- 気候変動関連及びサーキュラーエコノミーコンサルティングの需要継続
- 生産性の向上と一般管理費見直しによる固定費削減の効果を継続

*当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

2022年6月期連結業績見通し



前提条件の変化

項目	1 Q期間平均	2 Q期間平均	3 Q期間平均	4 Q前提条件
鉄スクラップ	49,461円/t	55,070円/t	56,738円/t	63,000円/t (50,000円/t)
電気銅	1,080,366円/t	1,148,866円/t	1,211,233円/t	1,250,000円/t (1,000,000円/t)
金	6,368円/g	6,585円/g	7,039円/g	7,800円/g (6,000円/g)
銀	87,844円/kg	86,649円/kg	90,819円/kg	95,000円/kg (85,000円/kg)
ニッケル	2,279円/kg	2,426円/kg	3,449円/kg	3,800円/kg (1,800円/kg)
コバルト	5,956円/kg	7,458円/kg	9,205円/kg	9,800円/kg (4,650円/kg)
為替 (円/USD)	110円	113円	116円	126円 (105円)

* (出所) 東京製鐵(株)、J X 金属(株)、IRuniverse(株)、日刊産業新聞、(株)三菱UFJ銀行

* () 内、2021年8月11日公表時の前提条件

2022年6月期連結業績見通し



(単位：百万円)

	2021年6月期	2022年6月期		
	実績	修正予想	前期比	
		(2022/5/13)	増減額	増減率
売上高	40,933	57,000	16,066	39.2%
売上総利益	8,364	10,580	2,215	26.5%
営業利益	2,130	3,310	1,179	55.4%
経常利益	2,508	4,000	1,491	59.5%
税金等調整前 当期純利益	2,101	4,010	1,908	90.8%
当期純利益*	1,491	2,870	1,378	92.4%
限界利益*	8,023	9,730	1,706	21.3%
EBITDA*	2,868	4,020	1,151	40.1%
純粋固定費*	5,895	6,260	364	6.2%
ROE	12.1%	20.2%	8.1%	66.6%

2022年6月期		
前回予想	前回予想比	
(2022/3/28)	増減額	増減率
55,000	2,000	3.6%
-	-	-
2,720	590	21.7%
3,200	800	25.0%
-	-	-
2,300	570	24.8%
-	-	-
-	-	-
-	-	-

*当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

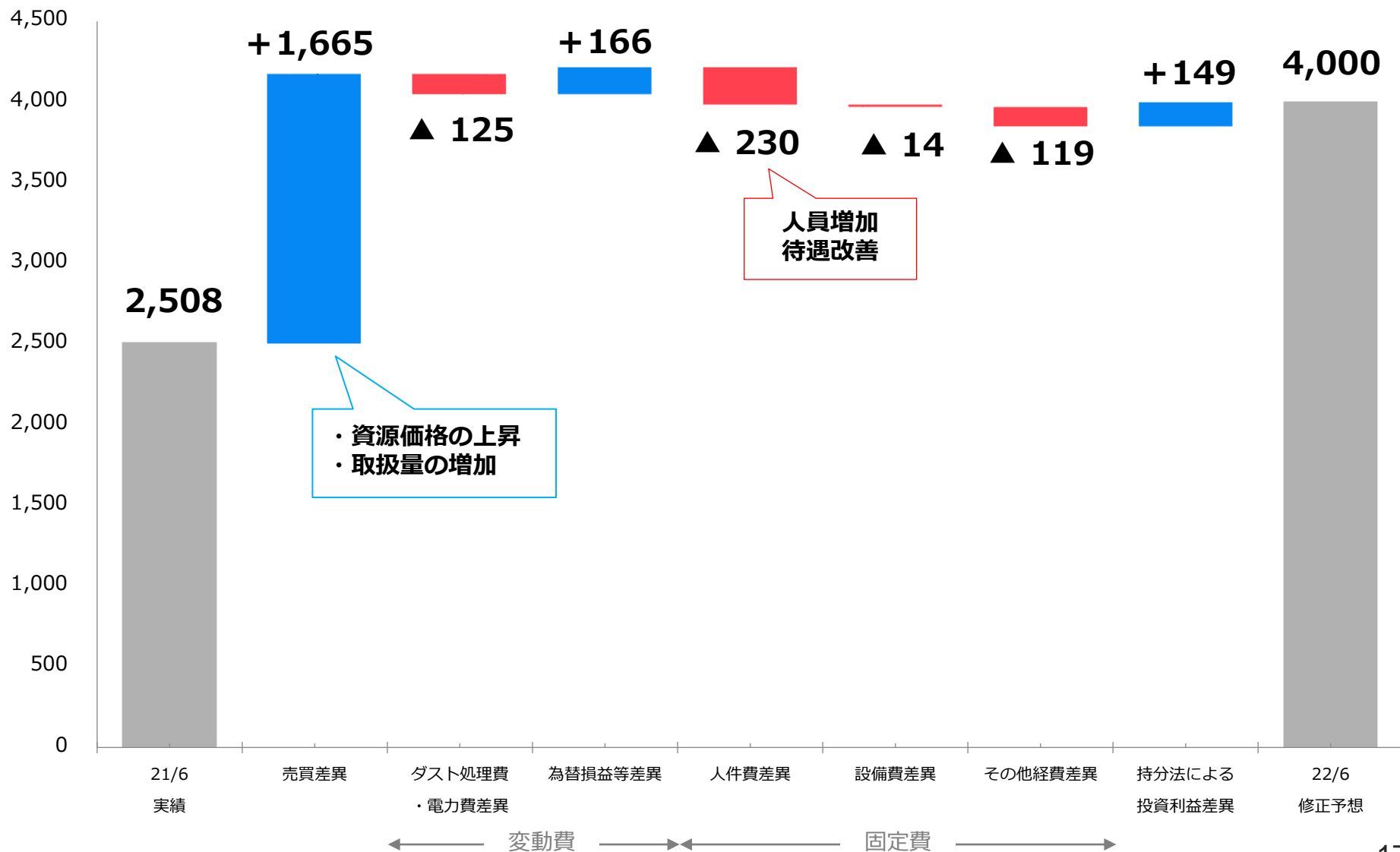
*限界利益 = 売上高 - 変動費

*EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却

*純粋固定費 = 【売上原価・販管費・営業外費用の固定費相当分】 - 【為替差益・持分利益を除いた営業外収益分】

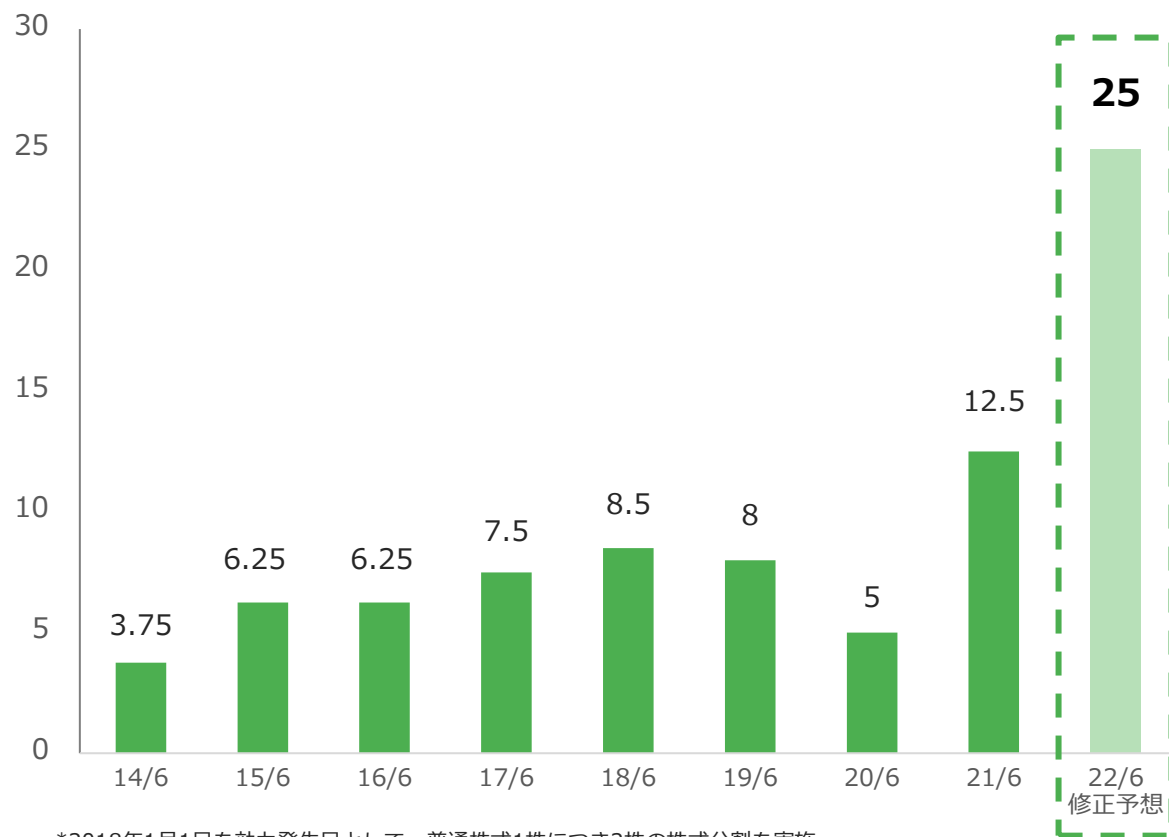
連結経常利益差異分析（前期比）

(単位：百万円)



当社の配当基本方針

- 内部留保等を総合的に勘案しながら、長期的な視野に立ち、安定的かつ継続的な利益還元を行うことを基本方針とする。
- 業績連動利益配分の指標として連結配当性向20~30%を目標とする。
- 連結配当性向に基づく配当金が年間5円を下回る場合にも、年間5円の安定配当を目指す。



配当予想の増配修正

当初予想
1株配当金 16.5円

修正予想

1株配当金 25円
(前期比 12.5円増)

*2018年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の株式分割を実施。
2022年4月20日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の株式分割を実施。
1株当たり配当金は2014年6月期以前から上記の株式分割が行われたと想定して算定しています。

3. 參考資料

セグメント別：品種別売上高

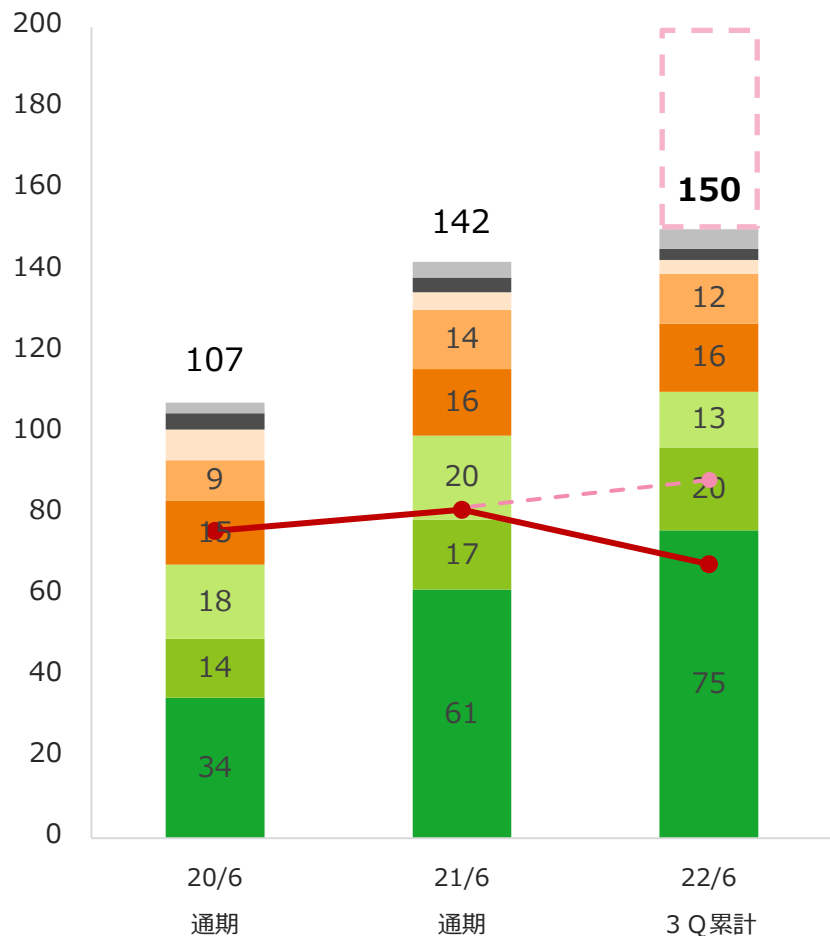


資源循環事業

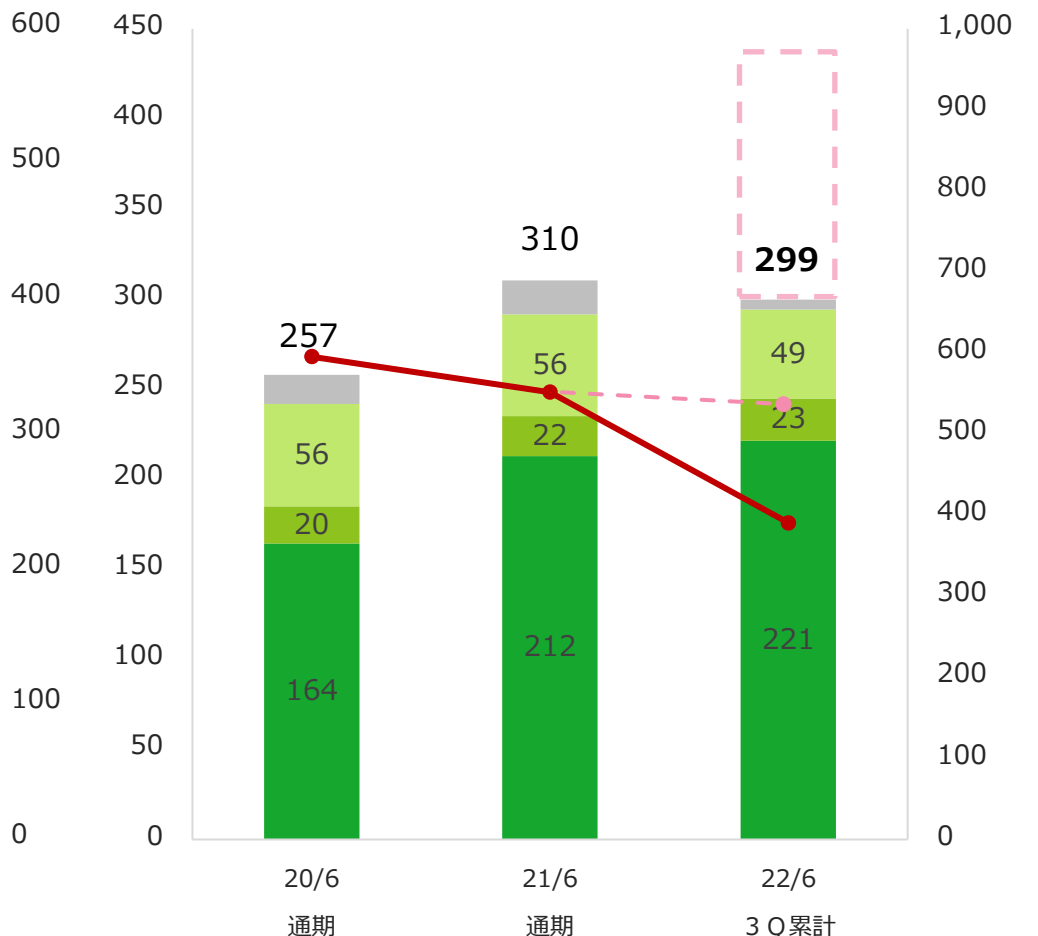
品種別売上高・合計取扱量

- 鉄
- ゴム製品
- RPF, 製紙原料等
- 非鉄金属
- 金銀滓
- その他
- 逆有償
- 解体・片付け等
- 取扱量

(単位：億円)



(単位：千 t) (単位：億円)



- - - : 4 Q 累計予想

連結：品種別取扱量・地域別売上高



品種別取扱量

(単位：千t)

品目	2020年 6月期 通期	2021年 6月期 通期	2022年 6月期 3Q累計
鉄	601	578	424
非鉄金属	33	21	14
金銀滓※	2	3	2
ゴム製品	12	10	10
RPF等燃料、製紙原料等	46	57	41
ブラックマス等※	－	0.6	0.6
その他	23	20	19
合計	719	693	514

(単位：kg)

品目	2020年 6月期 通期	2021年 6月期 通期	2022年 6月期 3Q累計
金回収量	70	71	47
銀回収量	1,069	1,244	811

地域別売上高

(単位：億円)

地域	2020年 6月期 通期	2021年 6月期 通期	2022年 6月期 3Q累計	
日本	117	197	213	
東アジア	韓国	82	73	90
	台湾	8	13	2
	その他	3	8	5
東南アジア	ベトナム	60	93	66
	その他	33	13	6
南アジア	インド他	4	3	4
西アジア	UAE他	6	1	6
南米	チリ他	8	2	6
アフリカ	ウガンダ他	3	1	1
その他	－	10	0	1
合計	338	409	406	

※金銀滓：金、銀、銅、プラチナ、パラジウムの混合物

※ブラックマス：カーボンが含有されているコバルト、ニッケルの濃縮滓

セグメント別業績四半期推移



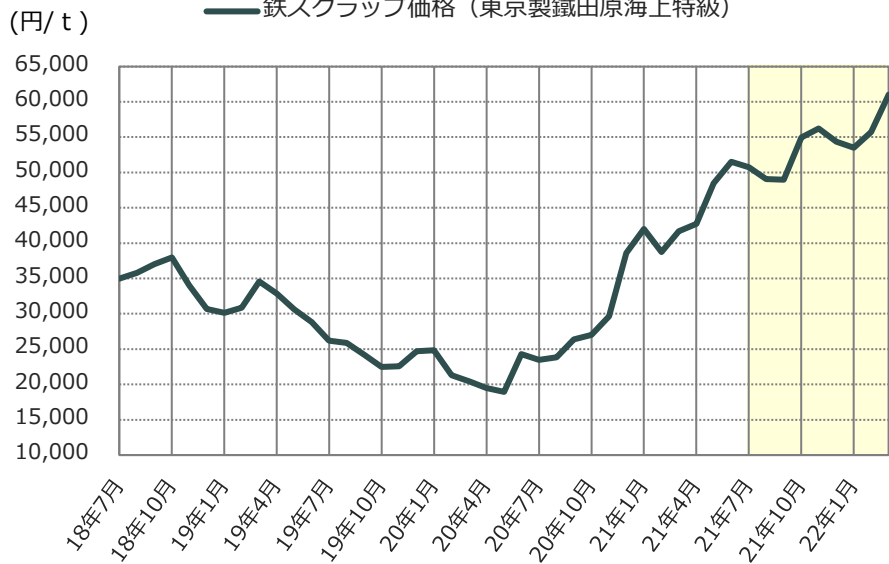
(単位：百万円)

セグメント		2021年6月期						2022年6月期				
		1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	通期	構成比	1 Q	2 Q	3 Q	3 Q累計	構成比
資源循環事業	売上高	2,795	3,194	3,730	4,496	14,216	30.9%	4,762	5,129	5,130	15,022	32.5%
	経常利益	242	494	619	723	2,080	74.4%	685	720	710	2,116	69.0%
	経常利益率	8.7%	15.5%	16.6%	16.1%	14.6%	-	14.4%	14.0%	13.9%	14.1%	-
グローバル トレーディング事業	売上高	5,356	6,914	7,558	11,204	31,033	67.5%	11,109	9,123	9,743	29,977	65.0%
	経常利益	61	102	264	282	711	25.4%	302	69	207	578	18.9%
	経常利益率	1.2%	1.5%	3.5%	2.5%	2.3%	-	2.7%	0.8%	2.1%	1.9%	-
リチウムイオン電池 リサイクル事業	売上高	62	62	68	162	356	0.8%	147	229	409	785	1.7%
	経常利益	▲37	▲42	▲24	24	▲80	▲2.9%	18	73	156	249	8.1%
	経常利益率	-	-	-	15.0%	-	-	12.9%	32.2%	38.3%	31.7%	-
その他	売上高	94	71	100	86	354	0.8%	127	116	123	367	0.8%
	経常利益	31	5	33	14	84	3.0%	45	36	42	124	4.0%
	経常利益率	32.8%	8.2%	33.0%	16.3%	23.8%	-	35.9%	30.9%	34.5%	33.8%	-
調整額	売上高	▲870	▲1,066	▲1,198	▲1,891	▲5,026	-	▲1,853	▲1,649	▲2,034	▲5,537	-
	経常利益	▲81	▲63	▲138	▲3	▲287	-	▲130	▲60	▲110	▲301	-
	経常利益率	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
連結	売上高	7,439	9,176	10,259	14,058	40,933	100.0%	14,292	12,950	13,372	40,615	100.0%
	経常利益	216	496	754	1,040	2,508	100.0%	921	838	1,007	2,767	100.0%
	経常利益率	2.9%	5.4%	7.4%	7.4%	6.1%	-	6.4%	6.5%	7.5%	6.8%	-

※セグメント利益は経常利益で記載をしております。

相場推移①

鉄スクラップ価格（東京製鐵田原海上特級）



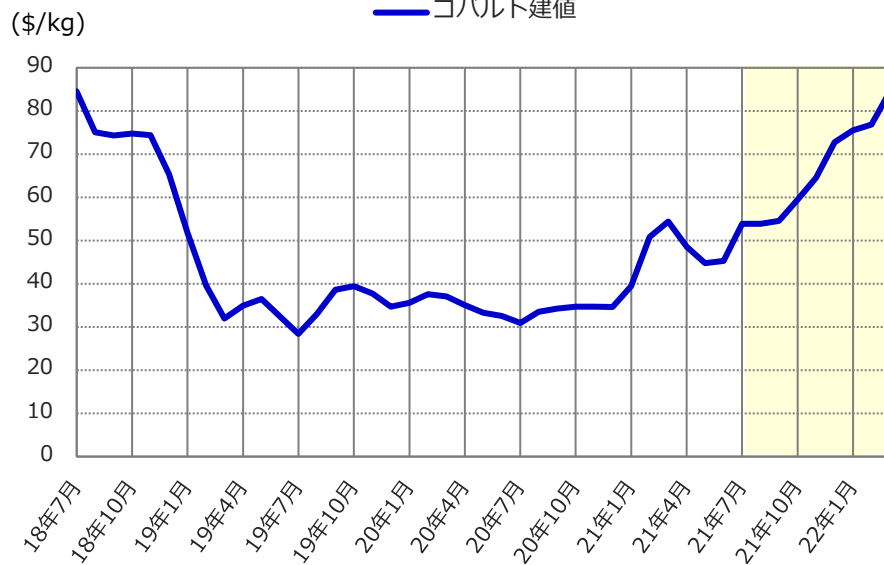
電気銅建値



ニッケル建値



コバルト建値

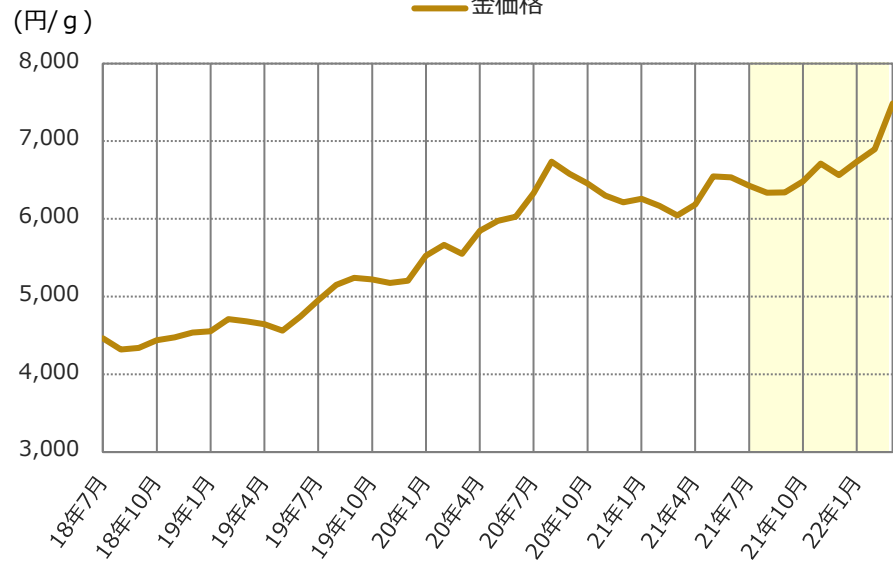


(出所) 東京製鐵(株)、日刊産業新聞

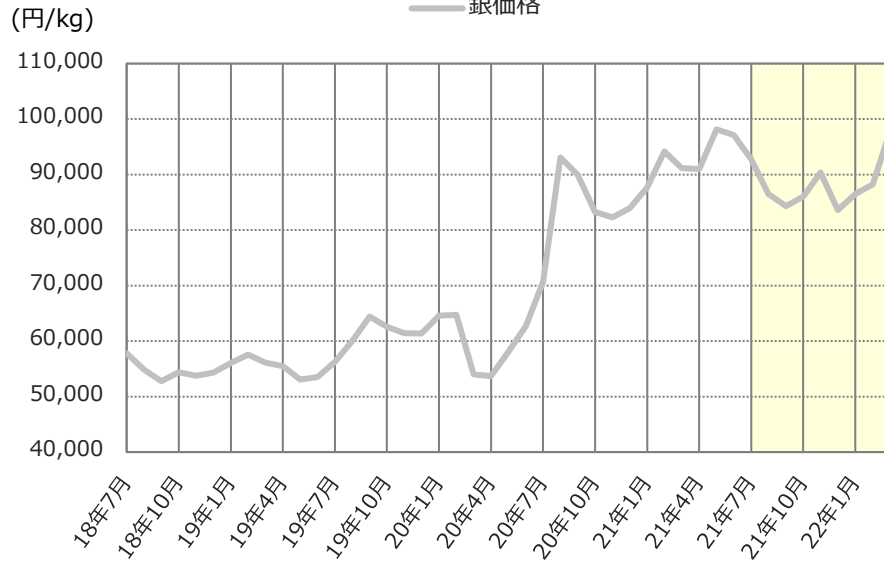
(出所) J X 金属(株)、IRuniverse(株)

相場推移②

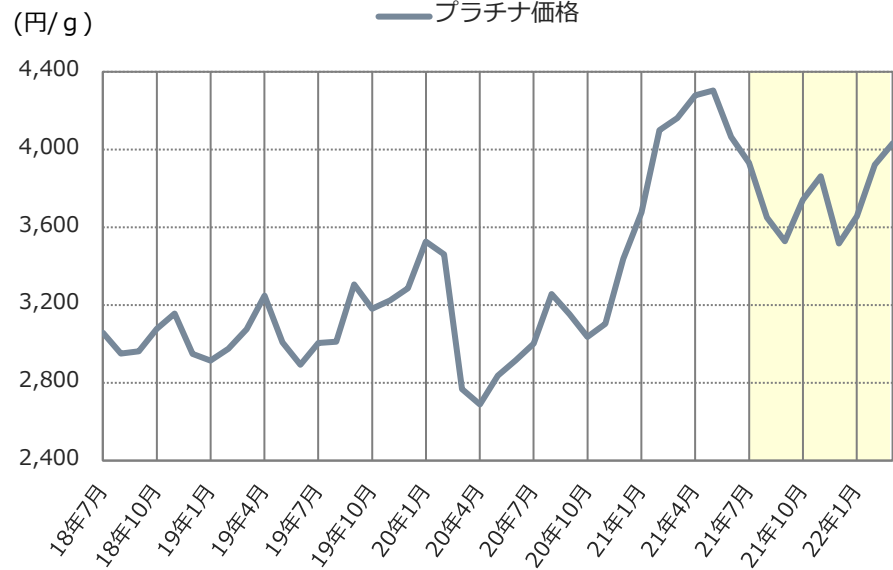
金価格



銀価格



プラチナ価格

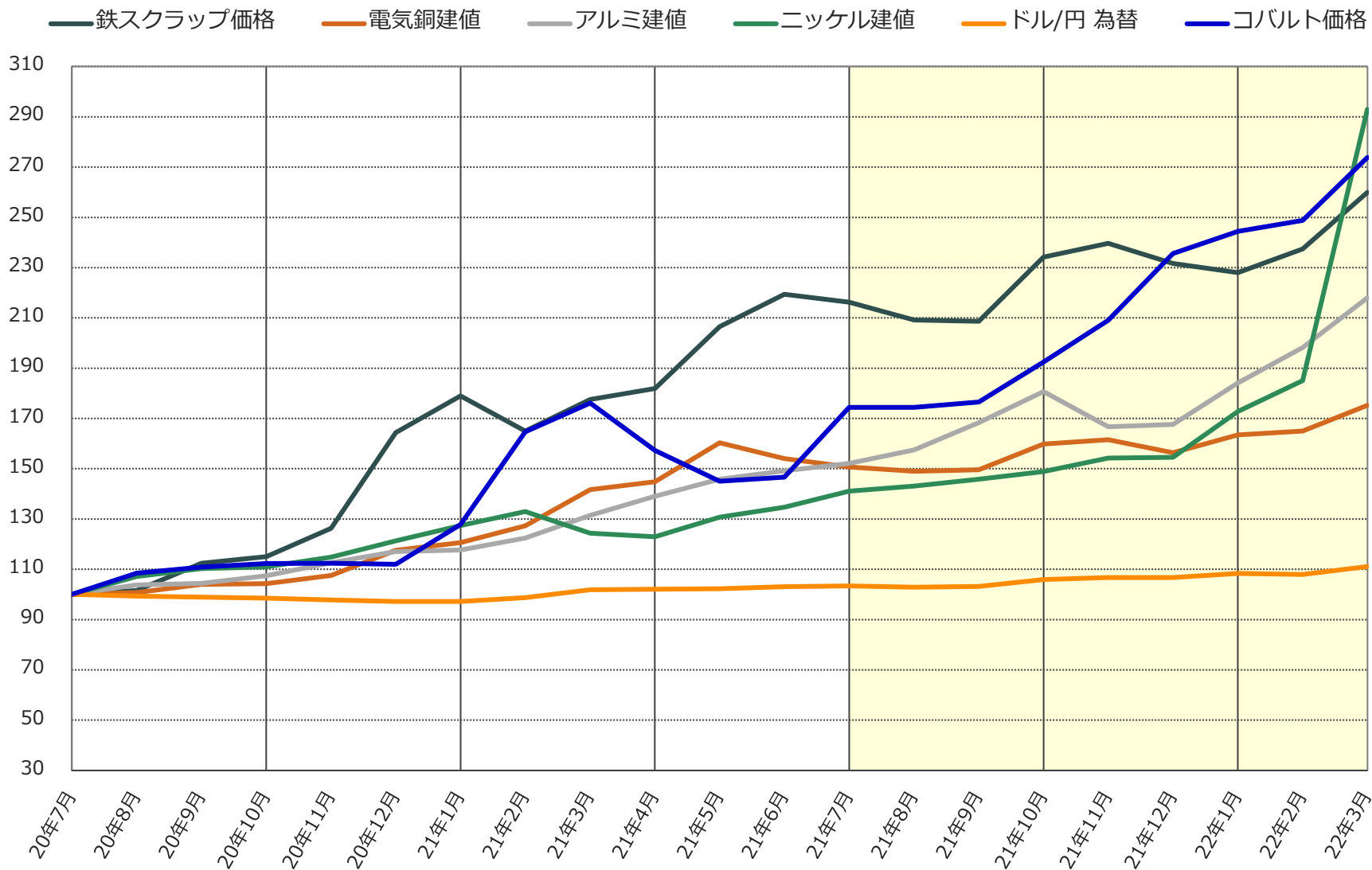


パラジウム価格



相場推移③

金属相場の推移 (INDEX推移 2020年7月を100とする)



(出所) 東京製鐵(株)、J X 金属(株)、(株)日本経済新聞社、日刊産業新聞、IRuniverse(株)、(株)三菱UFJ銀行

中計 ～サステナビリティ戦略の概要～ (2021年7月～2026年6月)

(2021年8月27日公表)



売上高		経常利益		ROE	
700億円		40億円		15.0%	
(2026年6月期)		(2026年6月期)		(2026年6月期)	
291億円	409億円	8億円	25億円	8.0%	12.1%
(2016年6月期)	(2021年6月期)	(2016年6月期)	(2021年6月期)	(2016年6月期)	(2021年6月期)

企業理念
最も大切にしている価値観でありDNA
(時間軸なし)

「脱炭素社会」「循環型社会」「分散型社会」
実現に向けた課題解決を
事業機会としてチャレンジしていく

ミッション
持続可能社会実現の一翼を担う
存在意義、一定の時間軸での目的・志
(2050年までの30年間)

「企業価値向上に必要な組織の個別機能を鍛える」
「ガバナンスを強化する」
「良質なエネルギーに満ちた場をつくる」

中期経営計画
(2021/7～2026/6)
長期ビジョン実現のための戦略

【事業コンセプト】
サーキュラーエコノミーの具体的事例の実現
【事業の方向性とそのための主な手法】
地上資源由来の素材メーカーに変革(QCDC)
全国レベルの回収網確立
経営活動の全てのプロセスでGX、DXの推進

単年度事業計画
中期経営計画を達成するための
具体的な取り組み

【目指す姿】
社会インフラとしてのリサイクル業に成長
【組織のイメージ】
創発的能力を備えた自律した個人の規律ある集団

前提条件 (2022年7月以降)

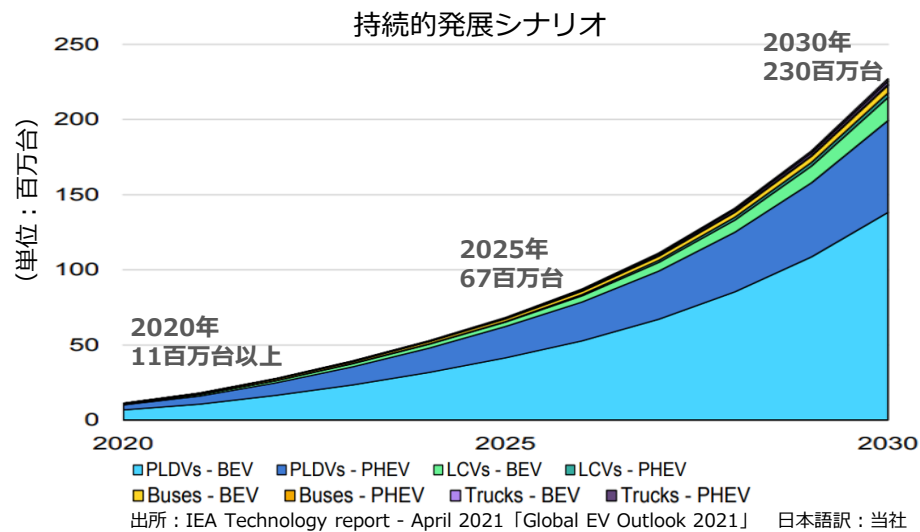
鉄スクラップ	電気銅	金	銀	ニッケル	コバルト	為替
42,000円/t	1,000,000円/t	6,000円/g	85,000円/kg	1,800円/kg	4,650円/kg	105円/USD

①リチウムイオン電池リサイクル

(2022年2月22日公表)

急拡大する二次電池市場に対し、グループの経営資源を集中的に投入して、使用済み二次電池等からのレアメタル（ニッケル・コバルト等）回収事業を本格化する。

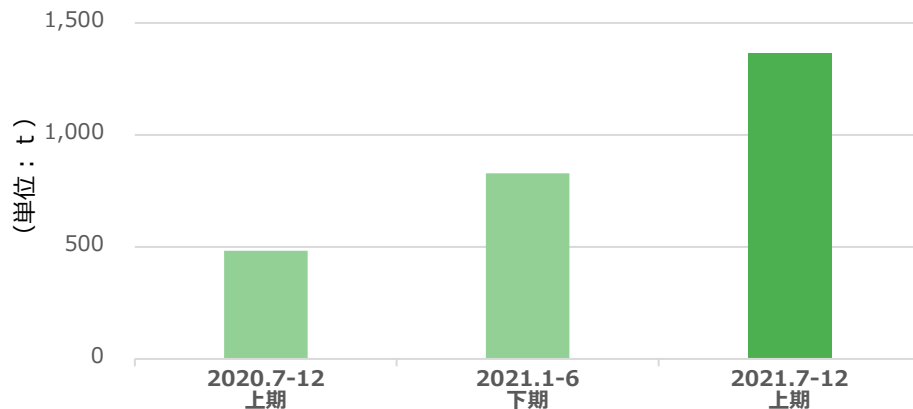
2020年から2030年のモード別の世界のEV保有



EV市場は
急速に拡大

EV保有 約20倍
(2020年→2030年)

LIB関連入荷量実績



LIB関連
入荷量実績

約2.8倍
(2020年上期→2021年上期)

①リチウムイオン電池リサイクル

(2022年2月22日公表)



エマルションフロー技術を用いたLIBからのレアメタル回収の共同研究を開始 (2021年8月2日公表)

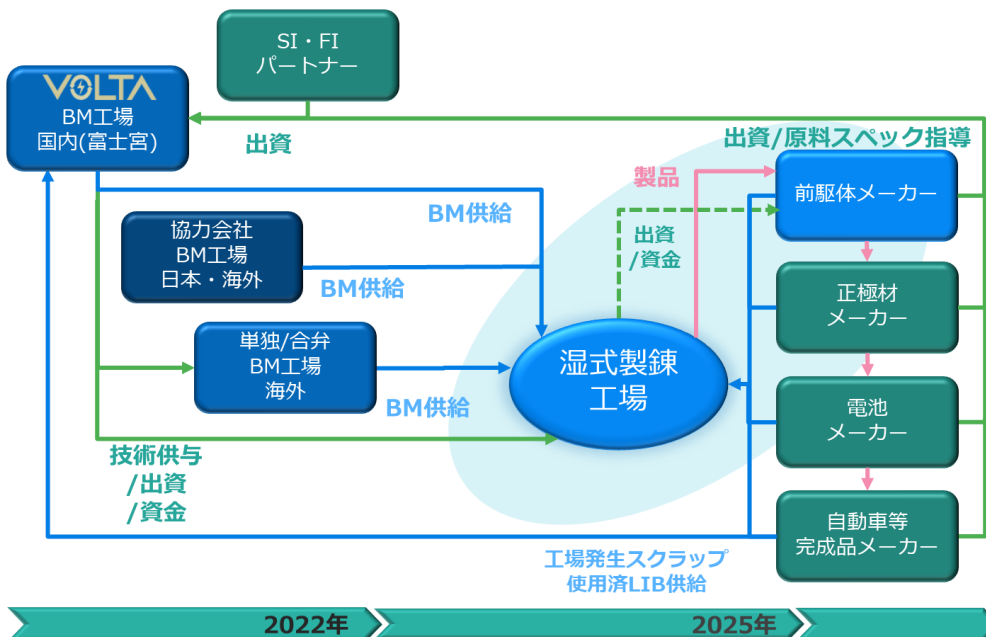
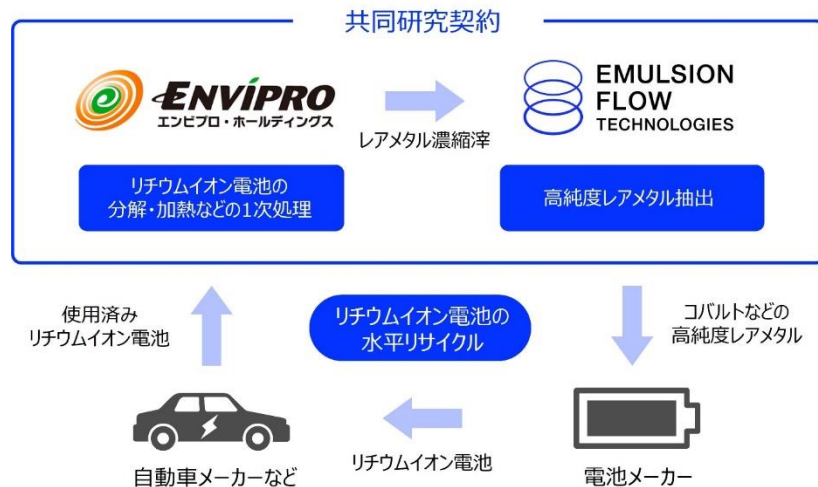
〈各社の役割〉

当社

- ・ LIBの集荷、1次処理したレアメタル濃縮滓の提供
- ・ 溶媒抽出技術の各種知見の提供

エマルションフローテクノロジーズ

- ・ エマルションフロー装置のスケールアップ開発
- ・ エマルションフローによるレアメタル抽出フロー開発



LIBリサイクルで協業できる会社（同業者、LIB製造メーカー等）と技術、資金、商材でアライアンスを組む

これまでの取り組み

- 2010年 LIBリサイクルの研究開発を開始
- 2018年 株式会社VOLTA設立
LIBリサイクル事業に参入
- 2020年 リサイクル設備稼働
ニッケル、コバルト、リチウムを含むレアメタル濃縮滓の生産・販売を開始

今後の取り組み

- 2022年度 既存レアメタル濃縮滓製造工場の拡張
- 2025年度 湿式製錬工場を稼働
- 2025年度以降
前駆体製造
クローズドループ（電池to電池）構築

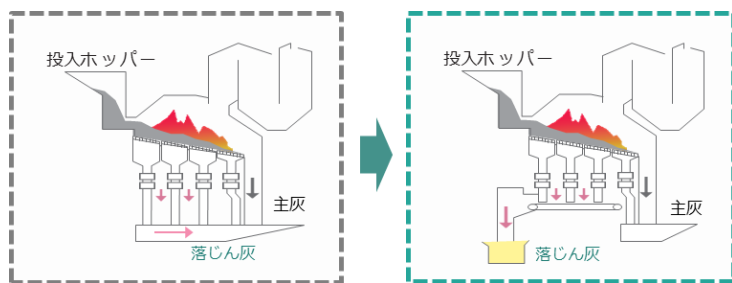
②焼却灰等からの金銀滓回収

(2022年2月22日公表)

グループで3機目のプラントを建設。焼却灰、自動車破碎残渣等からの金銀滓（金、銀、銅、プラチナ、パラジウムの混合物）の回収を事業の柱の1つにしていく。

落じん灰からの貴金属回収

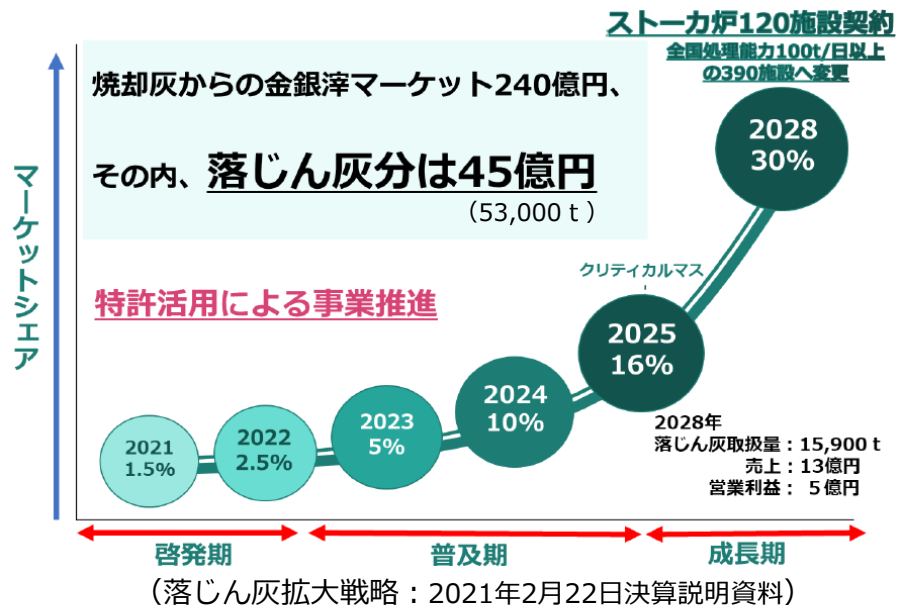
落じん灰を焼却炉から直接別取りできる改造を自治体が実施し、それをグループ各社が購入し、自社のプラントで効率的な貴金属回収を実現



(落じん灰別取り改造イメージ)

自治体のメリット

- ①落じん灰の売却益を得られる
- ②落じん灰分の重量の埋め立て費用が削減される
- ③主灰側に行く重金属の含有比率が下がるのでキレート等の費用が削減される



金銀滓回収プラント建設 (グループで3機目)

- | | |
|-------------|-------------------|
| (1) 設置場所 | クロダリサイクル (北海道函館市) |
| (2) 最大処理能力 | 18,000 t/年 |
| (3) 総投資予定金額 | 約2億円 |
| (4) 稼働予定時期 | 2022年8月 |



(完成イメージ)

新工場建設

- | | |
|-------------|----------------------|
| (1) 建設予定地 | エコネコル (静岡県富士市) |
| (2) 敷地面積 | 13,259m ² |
| (3) 総投資予定金額 | 約18億円 |
| (4) 竣工予定時期 | 2022年12月 |




(完成イメージ)

③全国を対象にした片付け・解体工事

(2022年2月22日公表)


工場・プラント解体等で、物件を保有する会社及び物件情報に近い会社・団体（金融機関、不動産会社、物流会社、メーカー等）との協業モデルを増やす。

三井住友トラスト・パナソニックファイナンス及び日本機械リース販売と「資産評価を伴う解体・設備処分のワンストップサービス」の提供を目的に業務提携（2021年11月12日公表）


 **中古機械の買取
(中古価値)**
日本機械リース販売

工場の動産設備や付帯設備を一括買取

**建物解体・不要な設備などの処分を
ワンストップで解決**

 **スクラップ処理・買取
(資源価値)**
エコネコル

不要な材料や中古価値として買取出来ない
動産についても資源価値での買取が可能

 **工場・設備の解体
(資源価値)**
エコネコル

工場・工場内設備の一括解体・撤去により工事費用を削減
解体から発生するスクラップを資源価値にて還元

工場・設備・機械

建物や設備の解体

産業廃棄物

**資産評価を共同実施
譲渡、処分、事業再編等の意思決定支援**

事業機会の増加

資源価格上昇による
顧客廃棄費用の減少

リース事業における
資産保有高の増加

脱炭素関連の設備投資
の活性化

業務提携により情報アンテナ機能・リユース品対応機能を強化。全国広域で廃棄物の適正処分・金属スクラップの買取り・中古品の売買・工場及びプラントの解体・土壌の浄化を一貫して行い、お客さまの利便性向上に努める。

④プラスチック資源循環

(2022年2月22日公表)

マテリアルリサイクル・ケミカルリサイクル・サーマルリサイクルの3つの手法を組み合わせ、最適で効率的な循環モデルを構築する。

リサイクル手法の多層的な組み合わせによる資源循環の高度化イメージ



ソフト

- ・CE*トレーサビリティシステム開発中
- ・CO₂排出量算定関連システム開発中

ハード

- ・既存リサイクルプラント (サーマル)
- ・TBM横須賀リサイクルプラント (マテリアル)
- ・ケミカルリサイクル新規事業開発中 (ケミカル)

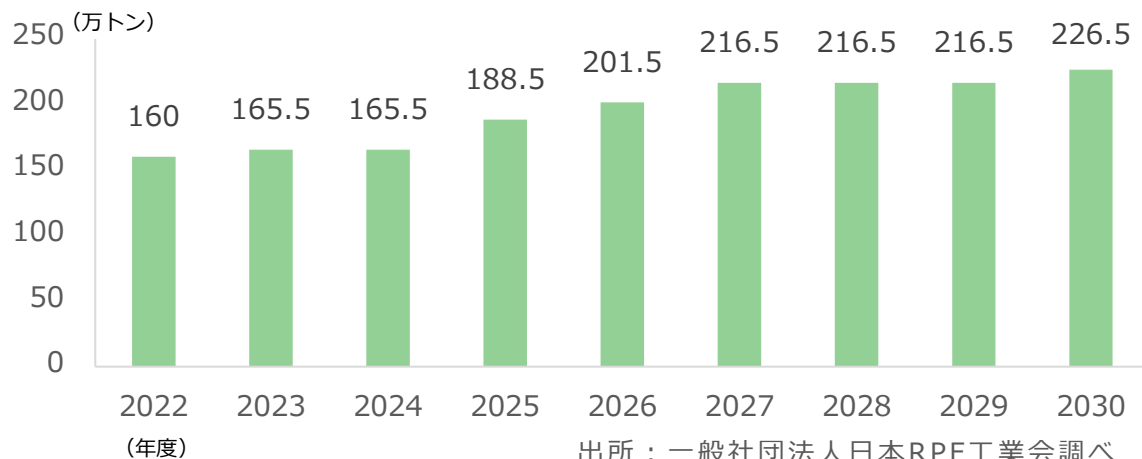
*CE: サーキュラーエコノミー

④プラスチック資源循環（サーマルリサイクル）

(2022年2月22日公表)

使用済み原材料を破砕＋選別＋混合＋成型加工等した低炭素原燃料で石油、石炭、コークスを代替する。

RPF需給予測



出所：一般社団法人日本RPF工業会調べ

石炭の代替燃料
RPF*の需要増加

CO₂削減効果
約33%

出所：日本RPF工業会HP
「RPFのCO₂削減効果」

低炭素原燃料の生産実績（2021年6月期）

R P F
36千トン/年



セメント原燃料
(フラフ状)
14千トン/年



鉄鋼副資材
9千トン/年



硬質プラ燃料
8千トン/年



低炭素原燃料
6万トン

2031年6月期
12万トン

(持分法適用関連会社の重量を含む)

*RPF : Refuse derived paper and plastics densified Fuel

④プラスチック資源循環（マテリアルリサイクル）

(2022年2月22日公表)



新素材ベンチャーTBMと協業し事業系、家庭系廃プラスチックとLIMEX*のサーキュラーモデルのマテリアルリサイクルを目指す。

TBMと、同社の2022年秋に稼働予定の横須賀リサイクルプラントにおいて年間約2万tの使用済みLIMEX、廃プラスチック類の回収・再生利用を目指す業務提携を締結（2022年2月14日公表）

[リサイクルプラント 概要]

- ・所在地 神奈川県横須賀市神明町
- ・敷地面積 13,693.50 m²
- ・建物床面積 7,859.85 m²

TBM

プラント総合プロデュース

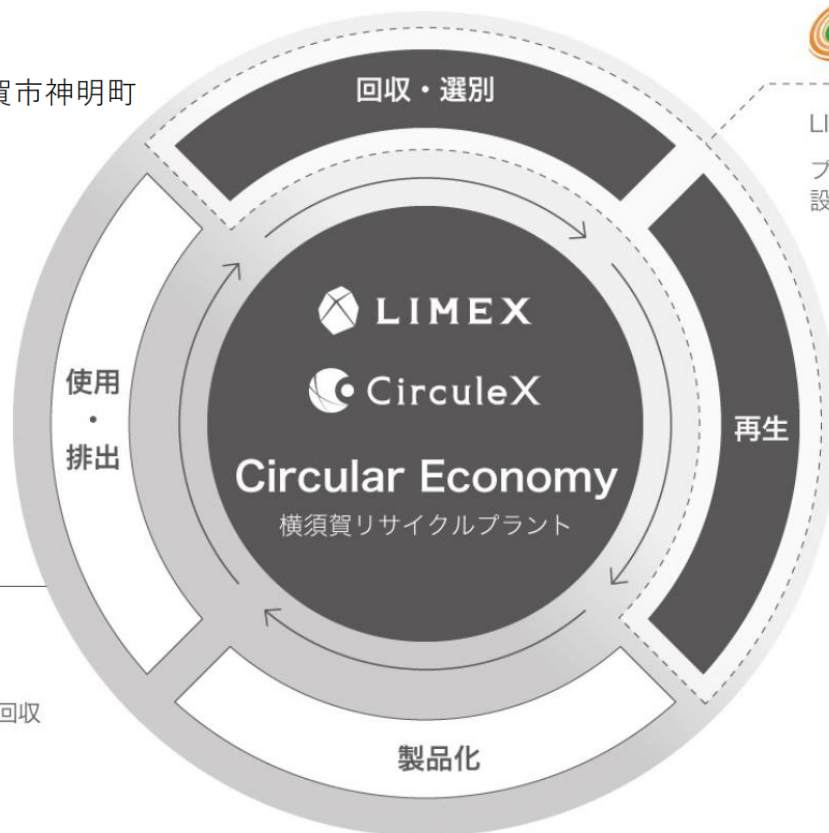
設備及び建物のプロデュース

LIMEX、事業系及び家庭系の廃プラスチックの回収

再生ペレットの生産・販売

トレーサビリティの確立

出口となる製品開発・販売等



LIMEX、事業系及び家庭系の廃プラスチックの回収
プラント運営の技術アドバイザー
設備メンテナンス・現場・生産管理等



*LIMEX：TBM開発の炭酸カルシウムなど無機物を50%以上含む、無機フィラー分散系の複合素材です。LIMEXは6,000以上の企業や自治体にて採用されており、世界40ヶ国以上で特許を取得、COPやG20の国際会議で紹介される他、日本の優れた技術として、UNIDO（国際連合工業開発機関）のサステナブル技術普及プラットフォームに登録されています。

⑤人材戦略

(2022年2月22日公表)

戦略を実現し持続的に成長するため社員一同が生き生きと働く良質なエネルギーに満ちた「場」を作る。

(事業コンセプト)

サーキュラーエコノミーの
具体的な事例の実現

(組織イメージ)

創発的能力を備えた自律した
個人の規律ある集団

事業と組織の両輪で成長するために 人材への投資を強化する

人材戦略

- ◆ サクセッションプランの推進
- ◆ 長期ビジョンと戦略に基づいた組織構築
- ◆ 戦略人材の確保と育成
- ◆ 採用強化（中途、新卒）
- ◆ 待遇強化

企業文化の醸成

- ◆ 企業理念の浸透（経営計画書）
- ◆ 企業理念説明会（パーパス）
- ◆ サンクスメッセージ、同僚・部下の自慢

多様性の推進

- ◆ 安心安全な職場、1on1ミーティング
- ◆ 女性活躍推進プロジェクト
2023年9月
女性社外取締役1名
2024年6月
女性管理職1.5倍*
2026年6月
女性管理職2.0倍*
*2021年6月比

社会的背景

労働人口の減少

人材獲得競争

幸せの概念の変遷

人生100年

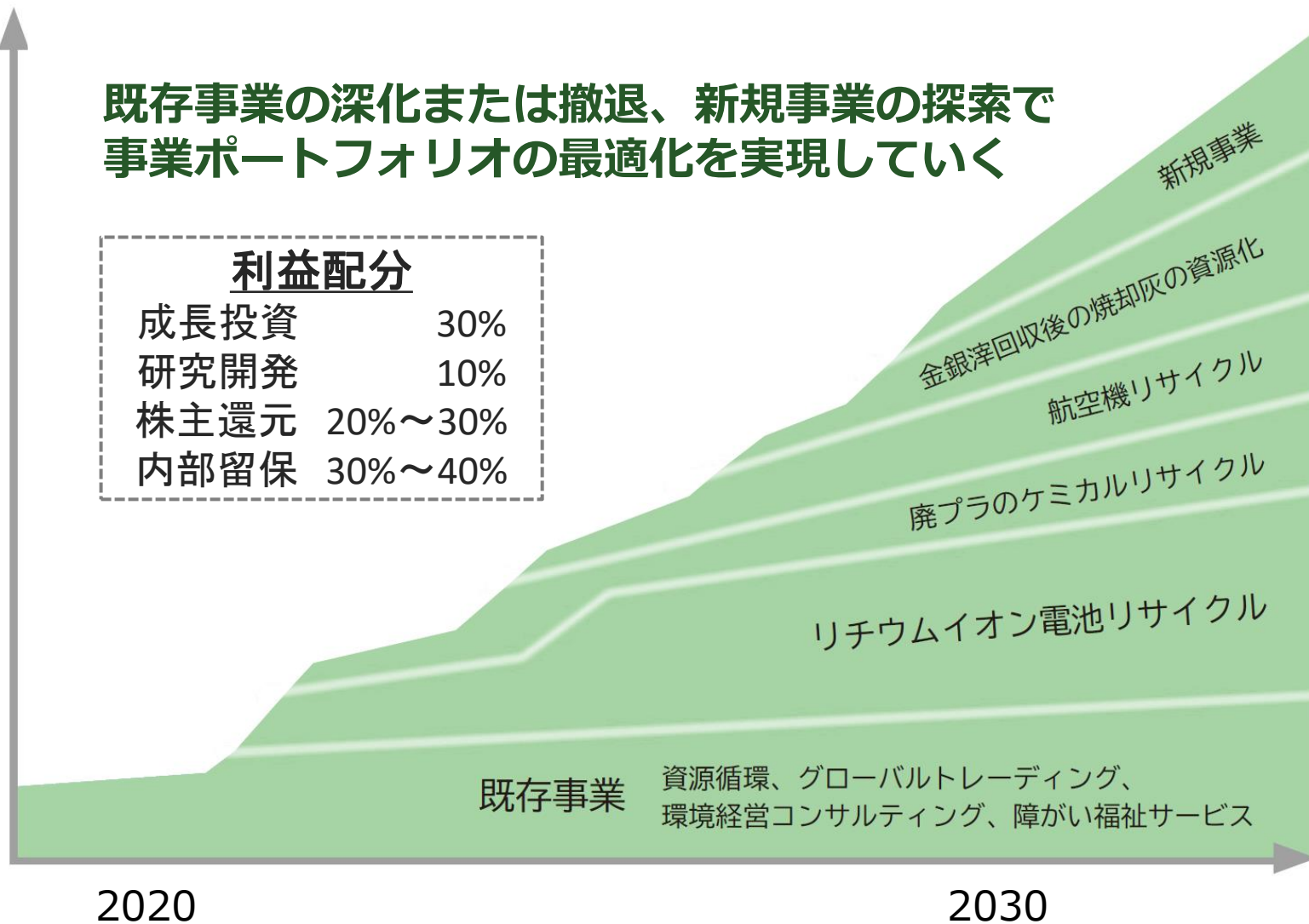
就業の多様化

企業価値創造の長期的取り組み（イメージ図）

既存事業の深化または撤退、新規事業の探索で
事業ポートフォリオの最適化を実現していく

利益配分	
成長投資	30%
研究開発	10%
株主還元	20%~30%
内部留保	30%~40%

企業価値



グループシナジー

- 本資料は投資家の参考に資するよう、株式会社エンビプロ・ホールディングスの現状を理解していただくために作成したものです。
- 本資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

【本資料及びIRに関するお問い合わせ先】

株式会社エンビプロ・ホールディングス 経営企画部

TEL (0544) 21-3160

URL <https://www.envipro.jp/>